

ナイスケアだより

第110号
令和3年7月発行

先日、新宿区主催の『生活支援体制協議会』に参加しました。この会議は区が中心となって高齢者の生活支援や予防サービスを住民主体で行う事業体と連携し、地域で支え合い活動の充実を図ることを目的としています。

町会や民生委員の方、食事サービスやふれあいサロンなどのボランティア団体の方、居宅・施設のサービス事業所の代表者などが集まり話し合いを持ちます。今回の話しの中では、さまざまな住民向けの活動がコロナ禍で行うことが難しく、皆さん大変苦勞をされていることがわかりました。集まっての活動が難しく、延期や休止の状態が続いている団体が多かったです。

新宿区としては『あらたな日常』における地域での支え合い活動を模索しており、パソコンなどを使用したオンラインでの活動を推進していますが、高齢者にはなかなか馴染むのが難しいようです。ただ、どの団体も地域での支え合い活動は、今後も工夫しながら継続して行っていく方針でした。会議では今後も横の連携を強化し、住民の困りごとなどの課題を会議で上げて情報共有し、改善を目指していくことになりました。

それぞれの活動の現状はまだ厳しいですが、地域課題を知ることで情報共有ができ、無理なくできる範囲の協力体制を築くことが横の繋がりの第一歩だと感じました。

介護の専門職として地域と連携を取りながら高齢になっても住みやすい地域作りに貢献できるようにしていきたいです。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～土用の丑の日～

暑さが日に日に増していき、本格的な夏がすぐそこまで来ています。この頃になると、スーパーマーケットの店頭には『土用の丑の日』のキャッチコピーとともにうなぎが並びますね。

私には100年以上続く、炭火うなぎの白焼きやうなぎの佃煮を扱った川魚問屋の友人がいます。この時期になると、丑の日に限らず毎日100キロ以上のうなぎをさばいて焼いての繰り返しと、大変なイベントとなっています。一度体験しましたが、さばくことはもちろん焼くことも全然できませんでした。友人に『串うち3年、割き(さばくこと)8年、焼き一生』と言われましたが、この言葉どおり職人の腕に左右するものなのだとな身をもって知れましたし、友人の問屋が100年以上続いていることはすごい事だと思いました。

私は毎年夏を乗り切るために友人の問屋でうなぎを購入し、スタミナをつけています。みなさんのもうなぎを食べて夏を乗り切りましょう。もうなぎがダメな人は、『うどん』『牛肉(うし)』『梅干し』などの『う』がつくものを召し上がると良いそうです。

荒井 亮介